

理学部への思い

寺部 茂

私は平成2年4月に理学部創設と同時に物質科学科化学分析学担当の教授として赴任してきました。平成3年4月に理学部の建物が完成し設備が導入され、1期生である新2年生が新都市キャンパスに移って来てやっと独立した理学部が発足しました。当時の播磨科学公園都市はSPring-8もまだ建設が始まったばかりであり、交通の便は悪く、生活利便施設もほとんどなく、生活する条件は未整備でした。研究環境は悪くはなかったが、研究室にはまだ卒研生はいなく、どの研究室も人影が少なく、活気にあふれているとは言えない状況でした。そんな環境でも、新理学部の運営のために、多くの委員会ができ、どの委員会でも頻繁に熱い議論が戦わされました。私のように工学部出身者は少数派で、理学部出身者は議論が好きで筋の通らないことは承知しないとの雰囲気が強かった記憶があります。このような教員の気質は理学部卒業生にも一部感染しているのではないかと思います。理学部出身者の特色ですから、卒業生の皆さんも、よいところは見習って、何事にも安易な妥協は避けていただきたいと思います。

平成8年～10年の理学部長を務めている間に、姫路工業倶楽部から理学部同窓会の独立の機運となり、分離に伴い困難な問題が生じ教員側としても強く支援したかったのですが、工学部と違って理学部教員に出身者がいなかったと言う不利な点があり、理学部同窓会創設時には関係者に随分お骨折りいただいた記憶があります。

今回で理学部卒業生も13回となり、約2,000名以上の卒業生が、社会の各分野でご活躍のことと思います。他の有名国公立大学や、大規模な私大と違って、兵庫県立大学理学部となり、姫路工業大学以上に知名度が低く、同窓生のネットワークも弱く卒業生の皆さんには、先輩後輩のつながりに頼ることは難しいかと思っています。しかし、理学部の研究内容は一流大学にも遜色はありませんので、その点は誇りに思ってください。これからの時代は、出身大学や研究室の名前だけでは通用しなくなり、各自が独創的なアイデアを持ち、それを確実に実現していくことが求められています。誰にも等しくチャンスが巡ってくるはずですが、それを如何に有用に発展させられるかが皆さんの力にかかっていると思って頑張ってください。ご健闘を期待しております。